

(2) 教科等を横断的に

こんな実践

自分の思いを絵に表すことが苦手な児童もいます。そんな児童が安心して自分の思いを表現できる図画工作の授業構想のために、国語や音楽の授業との関連から横断的に考えた実践です。

実践学校 W小学校

実践学年 6学年

実践時期 10月上旬

単元・題材名 「想像のつばさを広げて」

学習指導要領との関連：A表現(1)イ

○ W小学校では、図画工作科研究テーマ「自分の思いを表す喜びを実感できる図画工作学習をめざして～自分の思いを豊かに広げるための支援の工夫～」の具現に向け「他教科、他領域のつながり」を意識して取り組んでいました。右の図のようにグラウンドデザインを基にした研究テーマ設定の理由の中にそれを盛り込み、図画工作科の授業づくりに向けて、計画的に進めていました。



授業改善に向けた支援の具体 (一部抜粋)
「他教科、他領域のつながりをもたせるなどして、多方面からのアプローチにより、自分の思いをより明確にもち、考えを広げて表現できるようにする。」



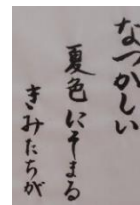
ここがポイント!

W小学校では、1学期の早い段階で、児童につけたい力を明確にし、それを育成するために効果的な教科や単元を探っていました。授業の内容だけでなく「どんな力をつけたいか」ということを教職員の間で共通理解しておく、関連しそうな教科や領域が見えてきます。

○「想像のつばさを広げて」は、心の中で思い浮かべたり、考えたりしている世界を想像した子どもたちが、自分の表したいことに合わせて、用具や表現方法を工夫して絵に表す題材です。国語や音楽との関連させた題材展開の様子をA児の姿から紹介します。

①国語科との関連（言語による表現）

W小学校の6年生は、信濃毎日新聞の企画で、「フォト×俳句」というコーナーがあることを知りました。そこで、実際になじみのある学校の周りで、「自分の好きな場所」「好きなもの」を写真に撮りに行き、そこで感じたことを基に俳句をつくりました。A児は、校庭の遊具を選び「なつかしい 夏色にそまる きみたちが」という俳句をつくり、楽しかった思い出を情感豊かに表現することができました。



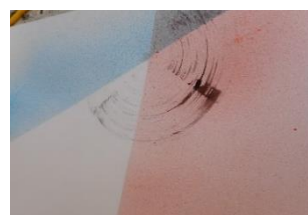
②音楽科との関連（音による表現）

写真や俳句から受けるイメージを基にして、音の出し方や組み合わせを試しながら音づくりをしました。発表会では、俳句をよんでからつくった音を流し、どのような様子を表すために、どんな音やメロディをつくったのか発表しました。A児は、思い出を振り返るような感じを表すために、マリンバを使ってゆったりとしたメロディをつくったと、自身の言葉で仲間に伝え発表できました。



③図画工作科での姿（絵画による表現）

A児は、「楽しかったなつかしい学校生活を絵に表して振り返りたい」という願いをもっていました。夏の思い出を表すためにオレンジと青の2色をスパッターリングの技法を用いて描きました。また、「なつかしい気持ち」を時計がさかのぼるイメージで考え、紐に絵の具を付け、それを回転させて円を描きました。A児は、国語と音楽の授業で段階を踏んでじっくり考えたことから、自分の思いをより明確にもち、考えを広げて表現できました。



ここがポイント！

表現の仕方はいろいろあります。話す・書く・描く・歌う・演じるなど児童一人一人がどんな表現方法が得意なのか、実態をつかんでおくことで、題材展開の中で、発想を広げるための手立てが見えてきます。

まとめ

児童に「どんな力をつけたいか」ということをグランドデザインなどを基に職員間で共通理解しておくこと、それぞれの教育活動の意味が関連し、横断的に展開していくことができます。今回は、表現の方法を1つに絞らず、さまざまなアプローチの機会をもったことで、自分の表したいことがより明確になり、その後の児童の製作意欲につながっていました。